

台風で開催が危惧されましたが、直撃を避けることが出来、予定通り10月27日(日)に、池田市・宝塚市で第4回定例懇談会が、開催されました。

- ＜参加者＞敬称略 (26名：部分参加も含む)
- |              |              |              |
|--------------|--------------|--------------|
| 白石 英也 (S32経) | 山本 恒徳 (S38経) | 木口 健児 (S40法) |
| 久枝 壯一 (S40法) | 増田 登 (S40商)  | 由良 豊一 (S40商) |
| 相本 琢郎 (S41法) | 酒井 克己 (S42法) | 服部 卓司 (S42商) |
| 松尾 哲雄 (S47経) | 松本文一郎 (S50文) | 鎌田 誠 (S51法)  |
| 青嶋 義晴 (S52工) | 藤岡 義久 (S52政) | 西村 元秀 (S53商) |
| 清時 康夫 (S54法) | 袖岡 稔 (S55商)  | 山代 和也 (S55法) |
| 阪本 光宏 (S61商) | 山岸 秀聡 (S61経) | 小堀 誠 (S63商)  |
| 浄住 徹朗 (H05経) | 兵藤 公治 (H10理) | 宮崎 博 (H16経)  |
| 柿塚 悠 (H24理)  | 松永 修 (S58工)  |              |

## I 平成25年度 関西慶應寮和会総会(22名) 11:00~11:40

大阪府いけだ市民文化振興財団本部第1会議室にて、青嶋義晴幹事(事業担当)の司会で、開催されました。(写真1)



写真1. 平成25年度総会 由良会長よりご挨拶

### ＜報告事項＞

西村元秀幹事(事業担当補佐)より、第I期:平成24年6月23日から平成25年12月31日までの事業について、報告が有りました。

### ＜決議事項＞

#### ・第I期会計報告について

阪本光宏会計担当より平成24年6月23日から、平成25年12月31日までの収支計算書に関する会計報告が有りました。引き続き、相本琢郎会計監査より当該収支計算書に関する会計監査報告が有りました。以上の報告に対して、異議無く、承認されました。

#### ・第II期役員改選について

増田会長補佐より、第I期役員の任期終了を平成25年12月31日とする事、及び第II期(平成26年1月1日~平成27年12月31日)の役員候補を提示されました。本件についても異議無く、承認されました。

選出された役員4名は以下の通りです。

会 長	由良 豊一 (昭和40年商卒) <重任>
会長補佐	増田 登 (昭和40年商卒) <重任>
会 計	阪本 光宏 (昭和61年商卒) <重任>
会計監査	相本 琢郎 (昭和41年法卒) <重任>

次に、会則に基き、会長は幹事を会員の中から委嘱しました。委嘱された新幹事8名は次の通りです。

幹事 酒井 克己 (S42法卒) <重任>	幹事 松尾 哲雄 (S47経卒) <新任>
幹事 青嶋 義晴 (S52工卒) <重任>	幹事 西村 元秀 (S53商卒) <重任>
幹事 松永 修 (S58工卒) <重任>	幹事 浄住 徹朗 (H05経卒) <重任>
幹事 兵藤 公治 (H10理卒) <新任>	幹事 宮崎 博 (H16経卒) <重任>

## II 小林一三に学ぶツアー 13:00~20:30

今回は「小林一三と文化」<学ぶ:PART2>のテーマのもと懇談会を実施しました。

慶應義塾出身であり阪急阪神東宝グループの創始者:実業家小林一三氏(逸翁)の生誕140年を記念し、同氏が築き上げた芸術・文化の軌跡を、総会後に皆様で辿りました。

### 【第1部】 12:30~13:45(23名)

#### ・逸翁美術館見学

阪急池田駅から、徒歩15分。静かな住宅街の一角に逸翁美術館はあります。その逸翁美術館で、特別展<小林一三と松永安左エ門>を鑑賞しました。(写真2)

逸翁と同じく近代茶人の一人であり生涯を通じて友であった電力王松永安左エ門(慶應義塾に明治22年入学)と逸翁を、取り上げたコレクションの展示です。

二人の茶道感を表す道具の取り合わせや茶の湯の枠を超えた収集品が100点以上展示されていました。

その収集品の多くは、重要文化財に指定されており、その文化的価値の高さには、驚かされました。

#### ・小林一三記念館見学

次に訪れたのが、小林一三記念館です。(写真3)

小林一三記念館での展示内容は、<文学青年 小林一三>小林一三は元来作家志望の青年でした。慶應義塾を卒業すると、三井銀行に入行しましたが、雑誌に小説を発表し続けるなど「文学青年」でもありました。また観劇に行くだけでは飽き足らず、自ら脚本を書くなど文化人としての素養を若いころから磨いてきました。

本展示では慶應義塾時代から宝塚歌劇創生期まで、小林一三が創作した小説・詩歌・脚本を紹介しています。

こうして磨いた素養が、単なるビジネスを超えた宝塚大劇場等素晴らしい文化事業の成功の礎になりました。

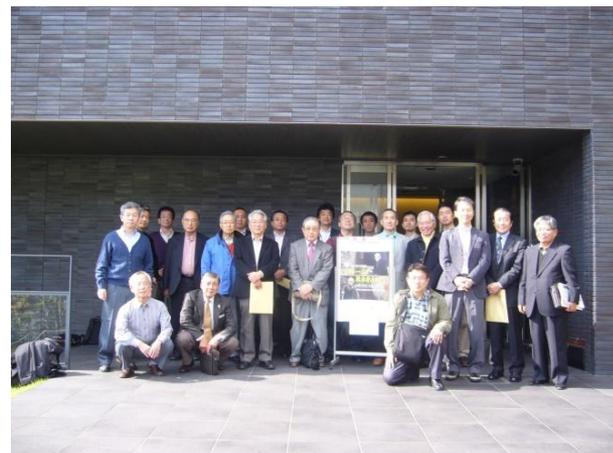


写真2. 逸翁美術館前にて



写真3. 小林一三記念館前にて

**【第2部】宝塚歌劇鑑賞 宙組公演「風と共に去りぬ」 15:00～18:00  
(22名)**

15時から宝塚大劇場で、宙組公演の「風と共に去りぬ」を鑑賞しました。

記者は歌劇鑑賞は初めてのせいか、最初はストーリーと場面毎に変わる衣装の登場人物を理解するのが精一杯でしたが、次第に引き込まれ、最後には感動と驚きで一杯でした。

多くの宝塚ファンが応援していましたが、なるほどその気持ちが解るなと感じました。(記者も宝塚ファンになりそう)

閉会后、劇場内の小林一三翁像前にて写真に収まりました。(写真4)

**【第3部】懇親会(兼 納会) 19:00～20:30 (20名)**

19時から、劇場近くのパブ Baum auf(バーム アーフ)で、懇親会が開催されました。多くの方が宝塚観劇は初めてだそうで、観てきた歌劇の話で持ちきりでした。

懇親会の途中からではありませんが、宮崎幹事の知り合いの宝塚ジェンヌに参加して頂け、今までの中で最高の盛り上がりとなりました。

彼女は、慶應女子高のご出身で、その華やかさと気品はさすがに宝塚ジェンヌと感じました。(写真5)

宝塚ジェンヌを囲んで楽しい時間を持つことが出来ました。そして、小堀OB(体育会:空手部出身)からの体育会仕込みの力強いエールと若き血の斉唱があり盛り上がりました。

最後に増田会長補佐の次なる挨拶で締めました。

<第I期・納会の席が義塾出身のタカラジェンヌのお蔭で華やいだ時空間に変わりました。ジェンヌの益々のご活躍に対し当会員挙って応援しましょう。GoodLuck!しょ〜こ!(彼女の愛称)>



写真4. 宝塚劇場 小林一三像前にて  
提供:久枝OB



写真5. 懇親会 宝塚ジェンヌを囲んで

### Ⅲ OFF-TIME

前回の増田会長補佐に引続き、今回は青嶋幹事に＜OFF-TIMEの楽しみ方＞をインタビューしましたので、紹介させていただきます。

青嶋さんのご趣味は、史跡めぐりです。(写真6)

神社、仏閣、城、古戦場等を訪れて先人の思いに馳せるとその時代に生きた人達の声が聞こえてくる様な気がするとのこと。以前、戦国時代小説の「島津奔る」を読んだ時、いたたまれずに関ヶ原に直行して、島津兵が戦場を脱したルートを見に行くほど、先人の思いが知りたくなることが有るそうです。

仕事が技術系が中心なのでその反動で歴史物にはまるのかなとおっしゃっています。そのために、関西慶應寮和会の企画は、歴史物が多いので大いに楽しんでおられるとの事です。

そして、定年後にはキャンピングカーで日本の史跡を巡るのが楽しみと笑顔で結ばれました。

### Ⅳ 編集後記

記者は、京都から大阪・梅田まで阪急電車で通勤していますが、いつもピカピカに磨いた車体に、阪急阪神東宝グループの経営理念の実践を目の当たりにして感心しています。

電鉄会社が何故、宝塚大劇場や当時先進的であったデパート経営、あるいは住宅地開発が出来たのか、その創業者の考えを学ぶきっかけとなる非常に有意義な企画であったように思います。

きっかけでもよい。そんな楽しい学びの場として、関西慶應寮和会を伸ばしていきたいと改めて思いました。

既に11月になり、これから記者の住む京都では紅葉が楽しみです。先月10月22日夜には、奇祭＜鞍馬の火祭＞を初めて見に行きました。(写真7)

出町柳駅から、叡山電鉄で約30分。狭い道路にごったがえすような多くの見物人の中、松明を背負った男達がサイレイヤ・サイリヨウ(祭礼や、祭礼の意)との掛け声とともに、練りあるく姿には、圧倒されました。時間があれば来年も是非行きたいと思いました。

会員の皆様も、ご近所のイベントの投稿をお願いします。皆で楽しい紙面を作っていきましょう。

以上



写真6. 天空の城 竹田城にて



写真7. 京都鞍馬 火祭り